新しい朝

府中市立府中第十中学校
学 校 だ よ り　Ｎｏ．７
校 長　芹 澤　敏 光
令 和　６年１０月２８日

地域の力

校 長　芹澤 敏光

１０月も後半となりましたが、いまだに関東地方でも夏日の声も聞かれ、秋の深まりを感じるのはもう少し先になりそうです。

さて学校の教育活動は、言うまでもなく、単に学校だけで行うことができるわけではありません。家庭や地域社会も、教育の場として十分な機能を発揮することが子供の健やかな成長には不可欠です。しかし文部科学省の資料では、家庭教育が困難なケースの増加や地域社会の教育力の低下に伴い、子供の教育に関する当事者意識も失われていくことで、学校だけに様々な課題や責任が課される事態になっていないだろうかということが指摘されています。また都市化や過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等を背景とした地域社会等のつながりや支え合いの希薄化によって、「地域の学校」「地域で育てる子供」という考え方が次第に失われてきたことも指摘されています。

このような状況下ですが、本校では今年度、「学校と地域が、『共に子供たちを育て共に地域をつくる』という理念の下で、学校や地域の特色や実情を踏まえて連携・協働し、子供たちの活動を推進する」ということを重点の一つとしています。その重点を支えていただいているものとして、十中学区では地域の方々が力を貸してくださっていることを感じることが非常に多くあります。その中の一つが地域貢献プロジェクトチーム（地プロ）の活動です。本校元ＰＴＡ会長・元府中市教育委員会委員の松本良幸さんのご指導をいただきながら、年間を通して子供たちの地道な活動を支えていただいています。これまでも折に触れて地プロの活動をお伝えしていますが、先日この地プロの活動が日本教育新聞(10 月 7 日付)に紹介されました。参考に裏面に掲載いたしましたので、ぜひお読みください。今後も地域の力に感謝の気持ちを忘れずに、子供たちの成長に取り組んでまいります。

朝採り野菜の無人販売所

近隣施設へのベンチ寄贈の様子

日本教育新聞 10月7日号記事

中学校・実践　　日本教育新聞

東京・府中市立府中第十中学校

地域貢献目指し有志が活動

野菜育て販売、収益金を寄付に活用

自己有用感高まり 不登校傾向改善も

行事の手伝い／要支援家庭への食料配布

東京都府中市の府中第十中学校（芹澤敏光校長、生徒354人）では、地域貢献を目的とした有志活動が活気づいている。近隣の畑で栽培した野菜を生徒が登校前に収穫し、校内の「十中朝市」や無人販売所で販売。得られた収益金は、地域施設への物品の寄付などに活用し、利用者からも喜ばれている。

地域への貢献を目指した活動を行う「地域貢献プロジェクトチーム（地プロ）」には、約50人の生徒が所属する。

東日本大震災をきっかけにスタートした取り組みで、当初の名称は「地域貢献プロジェクト委員会」だった。他の委員会活動とも両立できることから、本年度から「委員会」を「チーム」に変更。所属する生徒が増え、生徒会役員らも活動に参加している。

今年の「地プロ」の主な活動は、野菜の栽培・販売▽地域イベントの手伝い▽支援が必要な家庭に食料品を届ける「フードドライブ」―となっている。

野菜を栽培する畑は、市民の農業体験の場である「農業公園」内にある。学校から徒歩で5分ほどの距離にあり、地域の農業従事者から指導を受けながら活動している。毎年、4・5月に野菜の種まきや苗の植え付けを行う。草よけや害虫対策などを行いながら、作物を育てている。

春に植えたインゲン、トマト、ナス、ジャガイモが、6月には収穫できる状態に成長。「地プロ」のメンバーが3グループに分かれ、週に1回ずつ、朝7時半から畑で収穫作業を行った。朝のうちに収穫した作物を袋詰めし、無人販売所に陳列した。

毎回、商品として並べられた70～80袋の野菜は、地元の住民らが購入し、完売していたという。6月24日にスタートした無人販売は、7月中旬まで続いた。

教員や保護者向けに校内で「十中朝市」も開催した。

7月中旬の「西文まつり」で野菜販売を行う生徒と芹澤校長（左から2番目）

7月には学校近くの西府文化センターが主催する「西文まつり」で販売を行ったところ、3万円以上の売り上げがあった。

販売によって得られた収益金は地域貢献に役立てている。これまで、地域住民が利用する施設に自動手指消毒機やアルコール消毒スタンドを寄贈した。

今年は、誰人権施設に色鉛筆セットと屋外で使えるベンチを寄付する予定で、二つの幼稚園に絵本を贈ることになっている。

7月に市内の中学校の生徒会役員が集まって行った「リーダー研修会」の際、同校の役員は「地プロ」の活動を紹介。今後の活動の発展として、「みんなで協力することの大切さ、地域に貢献できることの喜びを学び、成長していきたい」という委員長の意気込みを伝えた。

地プロには、不登校傾向の生徒も参加している。この活動をきっかけに登校する姿も見られ、不登校改善の効果も。芹澤校長は、「地プロの活動は、生徒たちが自己有用感を高める機会となっている」と考える。

同校の周辺は住居が密集した古い付き合いも多く、地域活動が盛ん。芹澤校長は「学校での取り組みを手伝ってくれる大人たちに見守られながら、生徒たちは素直に育っている」と笑顔で語った。

府中第十中☎042・576・7227

※本記事の著作権は日本教育新聞社に属し、記事、画像等の無断転載はお断りします。

【生徒の活躍】（敬称略）

サッカー部	第４８回　府中市少年サッカー大会　中学生の部　第３位
バドミントン部	第６５回　府中市民体育大会秋季大会　バドミントン競技　少年の部 中学１年生　男子ダブルス　第３位
バスケットボール部	府中市中学校バスケットボール秋季大会　女子の部 敢闘賞・優秀選手賞　２年１名

【保護者の皆様】

《３学年２学期通知表の評定について》

令和６年度から１学期と２学期の評定を合算したものを２学期の評定欄に記載します。２学期の評定は「内申」として、お子様の進路指導に活用します。それに伴い２学期単独の評定はお伝えすることができません。ご理解のほどお願いいたします。